

平成25年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A6 教育情報メディア
2. 研究課題名 対象者の発達段階に応じた情報倫理教育教材の開発
3. 研究期間 平成25年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日

4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
中村 純	広島大学・情報メディア教育研究センター	教授	

5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
上原 哲太郎	立命館大学・情報理工学部	教授	
山之上 卓	鹿児島大学・学術情報基盤センター	教授	
辰己 丈夫	早稲田大学・情報教育研究所	研究員	
深田 昭三	愛媛大学・教育学部	教授	
多川 孝央	九州大学・情報基盤研究開発センター	助教	
村田 育也	北海道教育大学・教育学部旭川校	准教授	
山田 恒夫	放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター国際連携部門	教授	
中西 通雄	大阪工業大学・情報科学部	教授	
上田 浩	京都大学・学術情報メディアセンター	准教授	
布施 泉	北海道大学・情報基盤センター	教授	

6. 共同研究の成果

下欄には、当該研究期間内に実施した共同研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、共同研究申請書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、800字～1,000字で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。なお、研究成果の論文・学会発表等を行った実績（発表等の予定を含む。）があれば、あわせて記載して下さい。

私たちは、情報倫理教育のための教育コンテンツとしてビデオ教材を継続的に開発してきた（情報倫理デジタルビデオ小品集1-4）。本教材は、技術やツールが激しく変化する情報社会の中で、トラブルに巻き込まれることなしに、主体的に活動するための問題提起とその解決といったビデオクリップ集となっている。実写で、かつ短時間のビデオ小品集という形態をとることで、大学生である学習者に身近に感じてもらえるような工夫がなされている。しかしながら、このようなビデオの形態を取ることで、2つの大きな制限を課していることも事実である。一つは実写の主人公として、大学生（役者）が出演することで対象者層が（主に大学生に）限られること、もう一つは、ト

ラブルの発生とその解決という構成が多く、問題の是非が明らかではない場合、つまり正解がない問いの場合に、より深く思考するような教材としては不十分であることである。そこで本研究では、上記の制限を課さない発達段階に応じたコンテンツの開発を試みるため、以下の2回の研究打ち合わせを本経費にて行った。

【研究打ち合わせ成果】

1. 広島大学における打ち合わせ

年月日 広島大学において、発達段階に応じたコンテンツ作成のための調査項目を策定した。以下について、ウェブ調査を行い、結果を分析している段階である。

- ・対象者：大学生および40代の男女
- ・設問内容：情報倫理（情報モラル）の学習で、今までに学んだ内容
情報リテラシー能力の自己評価
（例：「匿名掲示板に書き込む」ことができるかどうか、等）
日常倫理の意識調査
情報倫理の意識調査
著作権の公表権に関わる情報倫理ビデオ、マンガの視聴
（対象者により、5種のカテゴリに分けて調査）
関連の著作権に関わる設問

2. 北海道大学における打ち合わせ

これまでの情報倫理ビデオの内容を振り返り、今後の新規コンテンツ開発のために、どのようなテーマが適切であるかの議論を行った。以下に望まれるコンテンツテーマ例を示す。

- ・SNSでネット依存
- ・炎上・拡散
- ・クラウド利用
- ・二段階認証
- ・サービスやアプリの利用規約を読みましょう
- ・新・個人情報保護とプライバシー
- ・キーロガー
- ・GPSとプライバシー
- ・お金とネットの話
- ・内定者コミュニティ
- ・コピペとダウンロード刑罰化
- ・デジタル万引き

等。発達段階により、それぞれのクリップのコア部分をどのようにアレンジすることが望ましいか、1の調査結果も踏まえ、今後、検討を行う予定である。

【関連の成果】

1. 深田昭三, 中村純, 岡部成玄, 布施泉, 上原哲太郎, 村田育也, 山田恒夫, 辰己丈夫, 中西通雄, 多川孝央, 山之上卓, 大学生の情報倫理にかかわる判断と行動, 日本教育工学会論文誌, 2013年 37巻 2号, 97-105